

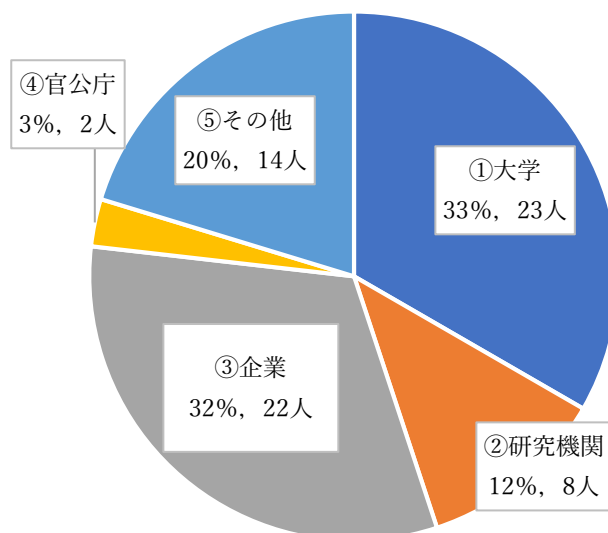
第3回レジリエンス研究教育推進コンソーシアムシンポジウム アンケート集計結果

■ 実参加者：132 名

■ アンケート回答者：69 名（回収率 52.3%）

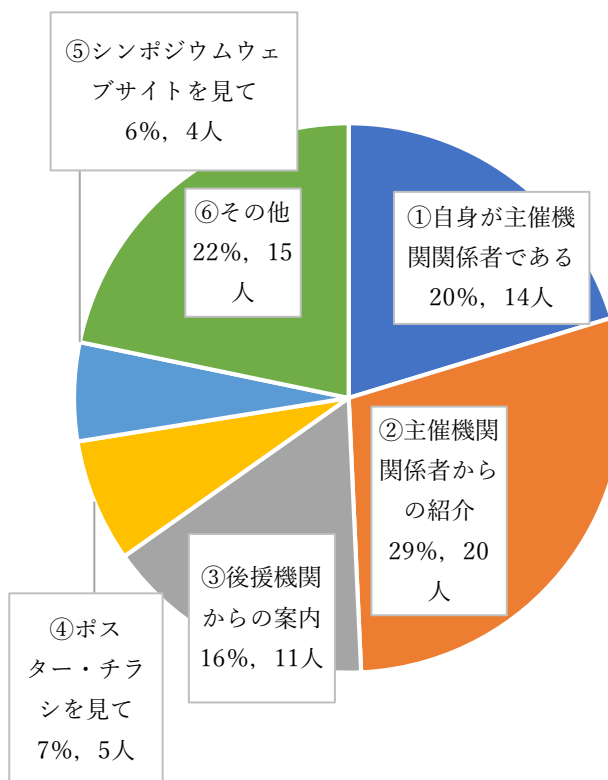
Q1. ご自身の所属について教えてください。（N=69 回収率 52.3%）

① 大学	23
② 研究機関	8
③ 企業	22
④ 官公庁	2
⑤ その他	14
合計	69



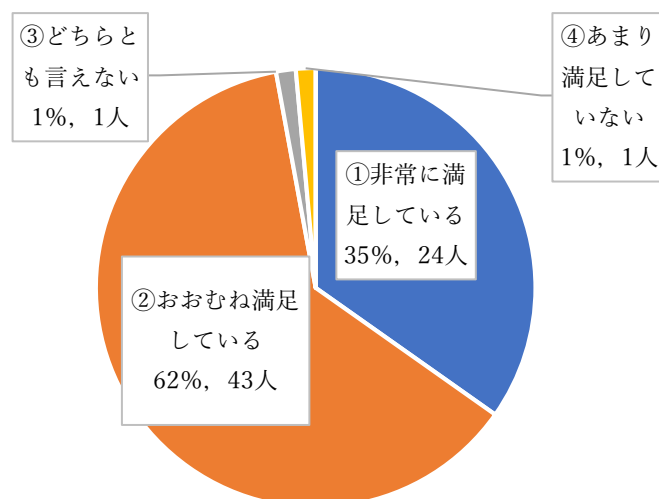
Q2. 本シンポジウムをどのように知りましたか。（N=69 回収率 52.3%）

① 自身が主催機関関係者である	14
② 主催機関関係者からの紹介	20
③ 後援機関からの案内	11
④ ポスター・チラシを見て	5
⑤ シンポジウムウェブサイトを見て	4
⑥ その他	15
合計	69



Q3. 本シンポジウムの満足度について教えてください。(N=69 回収率 52.3%)

① 非常に満足している	24
② おおむね満足している	43
③ どちらとも言えない	1
④ あまり満足していない	1
⑤ まったく満足していない	0
合計	69



Q4. 講演①「COVID-19 がもたらした医療現場の変化」(講演者：鈴木恭子氏)について、ご意見・ご感想を自由にお書きください。(N=25 回収率 18.9%)

【R2EC 参画機関】

● 企業

- ・TV メディア以外ではなかなか知ることのできない状況を知ることができ、社会情勢の理解に役立った。

● その他

- ・医療関係者の方の生のお話の中から、医療分野における様々な課題について知識を得ることができました。ありがとうございました。

【一般参加】

● 大学

- ・医療に関する知識は全くないのですが、大変分かりやすく、他のパンデミックとの比較の中で、今回のコロナの特徴がよくわかりました。
- ・医療現場の困難性が理解できました。
- ・医療現場の担い手からのお話をお聞きでき、大変有益でした。医療経営と診療科目の提供、1次から3次までの分担と経営、コロナ後の小児科などの利益率の低い重要な部門の在り方など、考えさせられました。
- ・現場の様子が具体的にわかり参考になりました。
- ・新型インフルエンザと COVID-19 とで診療上の課題がほぼ変わっていないということが再確認できました。また、COVID-19 における固有の問題もご教示いただきありがとうございました。

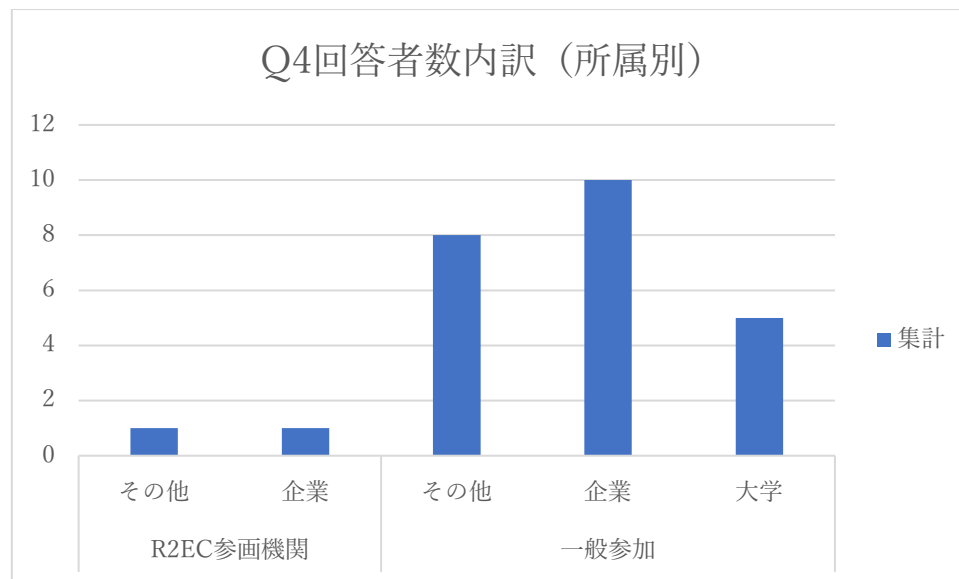
● 企業

- ・コロナ以外の医療需要の減少がクリニック閉院にまで広がりそうというお話にはショックを受けた。
- ・医療現場のお話が聞けて良かったです。大病院は、通常時より災害時は機能を上げなければならないので、BCM (MCP と呼んでも良いと思いますが) が大変重要だと思います。大学病院は BCP を構

築されていると思いますので、中小の病院向けに事例として積極的に公開されると良いと思います。
・医療現場のことについてもわかりやすくご説明ありがとうございました。3次救急病院から地元のホームドクター診療所までお取引があります。特に、診療所はコスト削減しても質の確保に取り組み赤字化しています。かなり問題ですね。
・医療者の現場感が、良く分かりました。このような貴重だと思いました。
・医療従事者ならではのお話であり、大変参考になりました。特に、小児科にしわ寄せが来たことは参考になりました。
・小児科医の立場からのリアルなお話が聞けて、大変参考になった。
・身近に感染者が少なくどこか非現実的な事象と捉えがちであるが、実際の医療現場の生の声が聞けたことにより、COVID-19が引き起こしている現状を身近にじることができた。
・専門性の高まり→細分化と視野を拡げて統合して考えることのバランスは、簡単ではないが非常に重要なことだと思いました。
・非常にわかりやすい説明で、報道による表面的な影響（COVID-19）への対応が、一般医療にどのような変化をもたらしているのかが少し分かった気がします。
・報道でしか知れない医療の現場を知る事ができました。医療従事者の方には日々感染リスクがある中での医療行為に感謝し、受診する側も感染対策を心がけるよう意識をかえていければと思います。

● その他

・ありがとうございます。くれぐれもご自愛ください。身近に迫ってきたのを感じます、知人からメールがありました。「友人が罹患しました。どう対応したらよいでしょうか」と、ありました。「買い物代行・置配はどうか」と答えました。患者・その家族への対応の在り方、ご教授いただければと思います。
・かつて新型インフルエンザ時、小児科医の現場と、現在進行中の COVID-19 における医療現場の対比に興味深く拝聴しました。COVID-19 の規模が世界規模で広がっていることの特異さもまた実感しました。
・マスコミ報道からだけではわかりにくい医療現場の生の声、実態を聞くことができて大変貴重な時間でした。
・医療の最前線の状況がよく理解できました、ご講演ありがとうございました。
・医療関係者の努力に感銘を受けました。
・医療現場の状況を改めて知ることができました。ありがとうございました。
・自己の業務に置き換えて、未知のリスクに対する知識不足、過小認識、ツール不足等、起きる前からのシミュレーションが大事であることが理解できた。
・新型インフルとの対比など包括的な説明がありよく理解できた。



Q5. 講演②「今こそ真剣に取り組む事業継続：COVID-19 に対する BCP/M」（講演者：長瀬貫隆氏）について、ご意見・ご感想を自由にお書きください。（N=24 回収率 18.2%）

【R2EC 参画機関】

● 企業

- ・これまで企業内で潜在的リスクであったことが、コロナによって一気に顕在化しつつあることが感じられた。いくつかは適応しうる知見だったが、予想以上の事態への対応力を考えさせられる。

● その他

- ・危機管理の方法として、人スキルの依存を軽減する点について、自身の環境を振り返って考えた場合に、その必要性を改めて感じるとともに、難しさ（人的リソースの限界）を痛感しました。ありがとうございました。

【一般参加】

● 大学

- ・一番お聞きしたかった内容ですが、別の重要な会議が重なり、画面をたまに見るだけで、お話を聞くことが出来ませんでした。残念です。
- ・感染症 BCP のすがたを再確認できました。時間が短くて残念でしたが、在宅によるサイバー攻撃の増加に対する論点もうかがうことができればよかったのと思いました。
- ・事業継続計画は企業だけではなく、行政機関が行っている必要がありますが、計画はあっても機能していないと思えます。
- ・複合的 BCP の必要性について参考になりました。
- ・歴史を紐解きつつ、これまでの BCP/BCM の COVID-19 という新たなパターンへの適応性について解説いただき大変参考になりました。

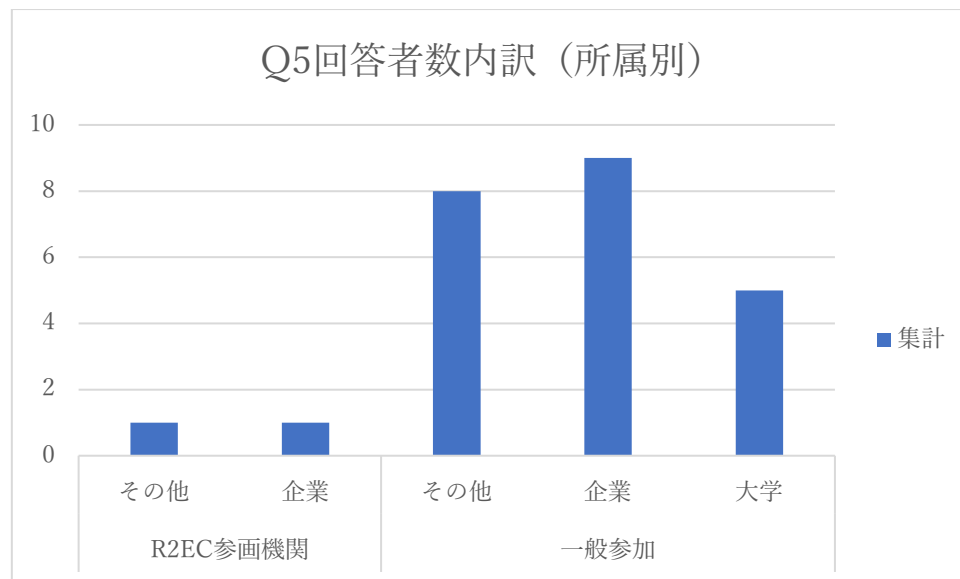
● 企業

- ・BCP の策定は比較的簡単であり、各事象ごとに BCP が策定されるが、頻度の少ない現実的なリス

クにおいて的確な運用が難しい。
・BCPの中で「新規事業への進出」は行き過ぎだと思われる。BCPはあくまで重要業務の「継続」であり、企業の舵を切るようなものではない。
・パンデミックでも変わらない。環境に適応できるかどうか。というのは新鮮な視点だった。
・レジリエンスある組織は、レジリエンスを持つ個人から形成され则认为しています。環境変化にシなやかに対応できる個人は、減点主義の日本社会からは排出され辛いと想像しているのですが、如何でしょうか？コロナ禍をきっかけに、日本社会が良い方向に変わることを期待しています。（←正にレジリエンス）
・熊本地震以降積極的に熊本の周囲の事業者へBCP/Mを推奨しています。自強継続力強化計画にも申請協力しています。非常に事業者に対して思いのある取り組みをされていて興味を持ちました。ありがとうございました。
・小職もBCPに関わる者ですが、お考えに共感いたしました。
・非常にわかりやすい説明でした。環境の変化に対して、正確な情報を入手し、分析を行い新しい環境に適合させて行くことが重要。まさに人類の生存の歴史です。情報発信源の拡大により正しい情報が何かの判断が難しく、かつ、地球環境の変化化から、経済成長が正義との固定概念の否定の時代では、環境の変化の項目が、各人により異なり、争いが生じ難しい時代になったと思います。
・平和ボケした日本の企業に喝を入れたいと思います。
・変化する環境に対して柔軟に対応するため、常日頃から現況を把握し対策を考えなくては行けないのだと思いました。

● その他

・BCPの策定状況や生き延びるために肝となるポイントを明確にお話頂き、危機管理やリスク対応における考え方や方向性がクリアになりました。
・BCPは政府・自治体だけでなく、企業・民間の取り組みが大事だとのこと指摘、さらにさらに広まって欲しいと思います。
・パンデミックが地域と組織と国家ならびに国際社会に与える影響の見方が認識できました。
・熊本でBCPの普及活動をしています。熊本地震の直後はBCPの策定に取り組もうとした企業もありましたが、現在も普及率は低い状態です。これから「熊本県BCP研究会」と意見交換して頂ければと思います。宜しくお願い致します。
・個々の人々、組織における適切な行為、自覚ある行為が、現況を凌ぎ乗り越える決め手だと思いました。
・大変参考になりました。社会全体が変化せざるを得ないなか、事業継続だけでなく、事業をどう変革していくべきかについてもご意見を伺いたかったです。
・中小企業に分類される建設コンサルタントに勤務するものです。東日本大震災を経験し、事業継続の危機感から会社としては災害からデータを守るための努力はしているものの、人材面でのリスク管理は皆無です。今後の検討課題として、取り組む必要性を再認識しました。
・未来を見据えることの大切さを再認識いたしました。



Q6. 講演③「地域経済と両立する COVID-19 感染予防策の検討」（講演者：倉橋節也氏）について、ご意見・ご感想を自由にお書きください。（N=30 回収率 22.7%）

【R2EC 参画機関】

● 企業

- ・シミュレーションからの仮説の実証、政治的方策による市民の行動変革まで、非常に興味深い考察で考えさせられた。

● その他

- ・シミュレーションの活用方法についてお話があったと思いますが、留意したいと思いました。ありがとうございました。

【一般参加】

● 大学

- ・仮想現実でのシミュレーションは先手を打つ際に大変有効だと思う一方で、客観的事実との乖離がどの程度であったのかしっかりした検証が必要だとも思いました。
- ・具体的な自治体のシミュレーションが作成されていることがわかり参考になりました。しかし、相当高度なコンピューターが必要とのこと、もっと簡便な手法が必要と思います。現在の自治体の財政難では、シミュレーションは普及しないのではないか、もっと簡便で、安価な方法を開発していただきたい。そうしないと、中央政府によるシミュレーションに依存して、集権化が進むだけのような気がします。
- ・私自身が観光について研究しているため、感染と旅行の関連を考える際にどうしてもやや観光抑制反対のバイアスがかかった状態で考えているように思います。それでも直感的に「感染状況が落ち着いているときにはある程度旅行が認められても、拡大局面の入り口では停止」と思っていたのですが、先生のシミュレーションで数か月後に影響することが示され、非常に納得することができました。
- ・倉橋先生が研究されているシミュレーションをインシデント対応計画やBCPに想定シナリオに具体的に盛り込むことができれば有事の対応が非常に効率的、迅速に対応できるようになるのではと感じました。

じました。

- ・統計数理分析は面白いですね。また、マスコミの対応についても納得しています。
- ・同上です。(一番お聞きしたかった内容ですが、別の重要な会議が重なり、画面をたまに見るだけで、お話を聞くことが出来ませんでした。残念です。)

● 研究機関

- ・このようなシミュレーションが行われていることを知り安心したが、その結果をメディアを通してもっと広く知らせて欲しい。
- ・シミュレーションについての新鮮な情報でした。モデル化はできていますか？
- ・シミュレーションの内容には、とても興味が持てた。

● 企業

- ・クライシス（≠ リスク）への対応を3つの視点（ハード、ソフト、ソフトでローカル）で考えることについて、特にソフトでローカルの視点が本質的なこと且つ倉橋先生からのメッセージと受け取りました。自戒の念【企業／一般参加】を含め、過度な依存心を捨て自分で考えることの重要性に気付ければ、日本の閉そく感打破されると信じます。また、マスコミに対するご意見も興味深く聞かせて頂きました。視聴者に迎合するのではなく、考えるきっかけをつくるコミュニケーション（発信）が必要だと思いました。
- ・シミュレーションの威力を再確認した。リアルタイムに近未来をシミュレーションできればもっとすごいことが起きそう。
- ・シミュレーションは実態が掴みにくいと感じていたが、実際の感染者数と一致している様子を見て、もっと戦略的に活用されるようになるといいなと思った。
- ・レジリエンスにおいて、シミュレーション等が有効なツールとなることは理解できる。それぞれの事象ごとにそのツールを活用し、その結果に基づき的確の判断できる人間育成の必要性を感じる。
- ・感染予防、感染対策と生産性の維持向上は今重要な課題です。非常にわかりやすくありがとうございました。
- ・各地域のシミュレーション結果大変興味深く拝見させて頂きました。また、「ソフトでローカル」な対応を心がけたいと思います。
- ・倉橋先生のご経歴や幅広い分野に興味を持って研究をしている姿に感動しました。
- ・大変興味深い内容でした。国がシミュレーション結果を積極的に公開してくれると国民の行動自粛のモチベーションになると思います。
- ・筑波大学の感染予測のHPも拝見して、情報公開の必要性を痛感しました。
- ・非常に興味のあるお話でした。シミュレーションはあくまでも特定の前提条件による参考例であるとのお話を聞き納得できました。シミュレーションを提示するとそれが正解のように理解されてしまい困りますし、あくまでもある条件の場合と説明すると、意味がない。と否定する人も多く説明が難しいです。

● 官公庁

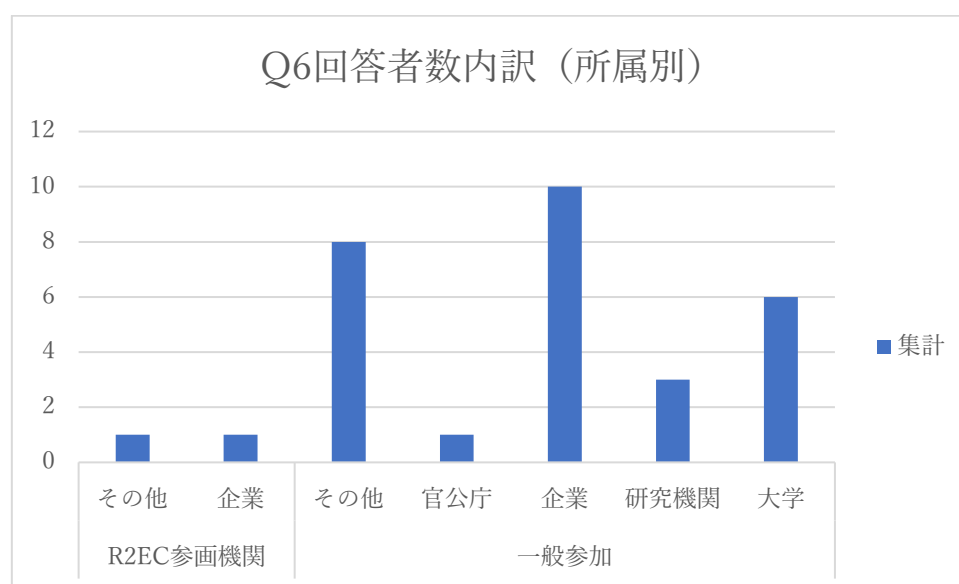
- ・非常に勉強になりました。ありがとうございました。

● その他

- ・シミュレーションの重要性、そして精緻なお話や考察が大変ためになりました。これを中小企業の

現場や経営に積極的に活かし、納得できかつリスク回避が上手くできるような成果として頂ければ。今後の展開、ご活躍に期待をしております。

- ・シュミレーションの説得力、身にしました。日本は「大義名分」の衝突を超える議論がなかなかされない。両論併記で失敗します。太平洋戦争以来同じです。正・反・合に行く説明を期待します。
- ・シュミレーションは大変わかり安く、注意喚起をする情報として有用であると思いました。ビジュアルでの情報発信は、記憶に残りやすいと思うので、行政サイドももっと活用してほしいと感じた。
- ・ソフト＆ローカルと言うフレーズに、あっそうなんだと思いました。しっかりした情報・状況把握の上で個人個人の自立した判断と行動をして行きたいものだと思います。
- ・是非、簡易的にできるシミュレーションシステムを完成させてください。BCPを策定する際のボトルネック・リスクマネジメントが明確になると思います。
- ・説明のあったシュミレーションは素晴らしいと思いました。もっと発信していただきたいと思います。
- ・非常にわかりやすい動的なシミュレーションを参照させていただき、ありがたい経験でした。会食を制限することでリスクが計算上低下していることが理解できて大変有意義でした。
- ・優れたモデルで正確な予測が可能であることがよく判りました。Made in Japan のワクチンが世界に先駆けてできていて接種できていたならばどうだったか？ のシミュレーションはできるのでしょうか？



Q7. パネルディスカッション「New Normal を見据えたリスク・レジリエンスのあり方」について、ご意見・ご感想を自由にお書きください。（N=23 回収率 17.4%）

【R2EC 参画機関】

● 企業

- ・コロナ禍において、レジリエンスコンソーシアムは存在感を発揮しなければならないのではないかと感じていたが、今日のシンポジウムを通して、1つの解であることを実感した。ぜひとも外へ向かって発信していく活動とリンクしてもらいたい。

● その他

- ・中座しておりました。申し訳ございません。

【一般参加】

● 大学

- ・ New Normal への環境変化には、DX、アフターデジタルを含めた人や組織・社会の変容の課題が伴うと思います。これらの課題をレジリエンスに絡めて伺いたかったと思います。
- ・ 国家レベルでの対応がアジアで一番遅れていたように思われますが、なぜそうなっているのか、どうしたらよいのか、個別のBCPを積み上げた新しいシステムが必要ではないかと思います。技術、社会システムの在り方までかわると思いますが。
- ・ 最後、拡散気味だった組織経営についての専門家の観点もパネラーとしてだったと思います。少しではありますが不完全燃焼感が残りました。
- ・ 司会者の巧みな進行により、興味深いテーマでの議論が続き、思わず引き込まれました。大変分かりやすい説明、納得のできるご意見でした。
- ・ 方向が違う立場ですが、結局は人材、キーマンですね。

● 研究機関

- ・ 「一人一人が意識して当事者として」というのが、できるようで、一番難しいのかも。でも、一部でもそれを担うつもりがあれば、自覚を持てるのかもしれない。
- ・ 人命と経済を比べるならば、当然人命を優先するという意見には違和感あり。そうであるならば、自動車の運転はできなくなる。政策決定では、リスク（＝可能性×重大性）を許容できるレベルに管理すること。ここをはっきりさせることが大事なのでは？

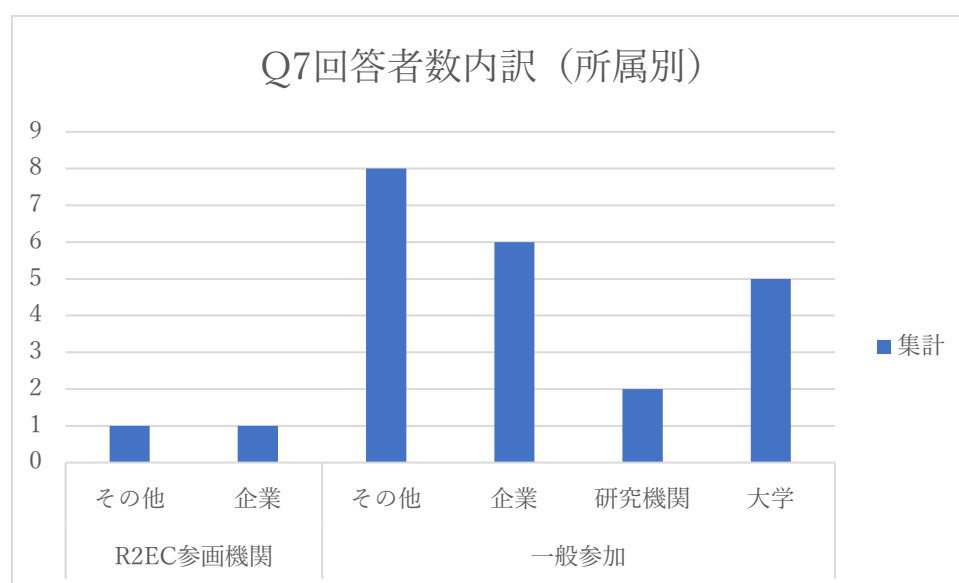
● 企業

- ・ COVID-19 は、時代の転換点の現在、制度、経済、技術のちぐはぐさを明確に浮き彫りにさせてくれた現象だと思います。New Normal を考える時、何が変わったのかのコンセンサスを共有することが重要であり、それを理解した上で、同復元するのかを議論する必要があると思います。復元する方向は前と同じではない方向となるのが、現在の難しいところだと思います。
- ・ モデレーターの歯に衣を着せぬご対応がとても印象的で、楽しく拝見しました。
- ・ リスクコミュニケーションをいかに大勢の人を巻き込んでとって行くかということの難しさを感じた。
- ・ 何のためのリスク・レジリエンスか、目的をもう少し絞っていただければ理解しやすかった。
- ・ 後半の話題（緊急事態を正しく捉えられない人がいるのは？）は、もう少し話を聞いてみたかった。（特に倉橋先生の長期的にはしつけではなく教育が必要・・・という点について）
- ・ 大変面白かったです。会場からのご質問も的を得たもので良かったと思います。

● その他

- ・ BCP を策定して実行している組織が極めて少ないという日本の社会とリーダーシップの貧しさに暗然たる気持ちです。
- ・ New Normal に対応しないと生き残りが難しいとの話は、耳が痛かった。
- ・ ありがとうございます。今日の苦勞から、人類愛に根ざした日本的対応を生み出して欲しいものです。

- ・コロナ禍に対して、事業継続も重要であるが、社会が変革するチャンスでもあるので、今後どう変わっていくべきかという視点も重要ではないか。
- ・サイエンス・リテラシーの意見には大いに賛成。2009年の新型インフルエンザ・パンデミックの事案から、今回の感染者の推移や現在の科学技術水準で対応できるようになるまでの時間はおおよそ見通せたと感じている。
- ・人間が今まで生きてこられたのは、対応力だと思います。パンデミック終息後この対応力がどれだけあるかが、生き残るための条件になると思いますので、今後の研究課題に取り上げていただければと思います。
- ・難しいテーマでしたが、それぞれのスタンスでのご発言が参考になりました。
- ・未来に展望を見いだせないなか、ぜひ、羅針盤となるような本取組をご継続ねがいます。



Q8. 全体を通してのご意見・ご感想や、次回以降取り上げてほしいテーマ等があれば、自由にお書きください。（N=18 回収率 13.6%）

【R2EC 参画機関】

● 企業

- ・コロナ収束へ向けた議論と、コロナ収束後の new normal の実現、with コロナの考え方など、切り分けが難しいながらも社会課題は山積みと思う。そこへ学術をどうつなげていくかを並行してもらえると心強い。

● その他

- ・貴重な機会を頂きましてありがとうございました。

【一般参加】

● 大学

- ・今回のように多様な分野から、鮮明なご意見を有する専門家を集めたシンポは有意義だと思います。もし、録画を拝見できる機会があると大変うれしいのですが、公開はされないのでしょうか。途中、

学内会議と重なり、長瀬先生と倉橋先生の御講演を聴けなかったもので。

- ・細かなコメントは上述の通りですが、全体を通じてはいろいろな気づきをいただき感謝しております。次回以降は、ニューノーマルの状況とはどうあるべきか、そこでのレジリエンスはこれまでのままでよいのか、など正解はないもののいろいろな観点から議論をぶつけるようなセッションを期待しております。
- ・日本の場合、起こった事件に対しては大きな関心と対応がなされるが、予防に対しては関心が薄く、政府の予算も少ないという妙な傾向、セクショナリズム、よく言えば分散システムを特徴のように思えるが、危機管理には手遅れになる。しかし、迅速にやれば独裁的といわれる。それをどのようにするかという制度設計について考える必要があろう。

● 研究機関

- ・最初は、心理学的な話だと思った。でもまあ、危機に対する対応として、いろいろな話が聞けてよかった。
- ・時宜を得た企画と感謝しています。

● 企業

- ・すみません、急な対応が入りました。後半は退席させていただきます。本業は保険代理店業ですが、BCP/M 制度と健康経営制度を地域のためにボランティアで実践推奨しています。学びたいと思いますので今後ともよろしくお願いいたします。
- ・レジリエンスが形成される環境や条件、国際比較（ダボス会議以降）とその対応、日本らしいレジリエンスとは何か？
- ・気候変動による自然災害や、自然循環環境の復元が求められる昨今、戦後の乱開発、特に宅地開発や市街化区域の拡大が、危険地域の住居や自然災害による住宅被害を招いて言います。また、広がりすぎた都市インフラの維持と、拡大・分散した高齢者やコミュニティなど、これかのレジリエントなまち、住環境の方向性について
- ・大変面白かったです。発表資料を公開していただけると役に立つと思いますので、よろしくお願いいたします。

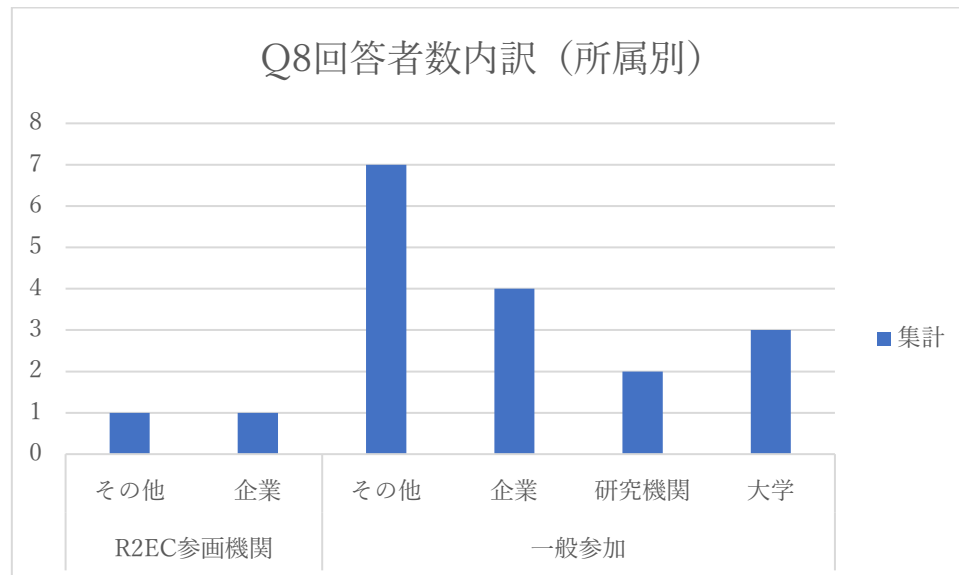
● その他

- ・「パンデミックと経営について」をより掘り下げた専門的テーマがあってもよいかもしれません。
- ・ありがとうございました。参考になりました。コロナとの戦いは今後も続きます。半年に一度ぐらいはこのテーマをお願いします。
- ・パネラーのバランスもよく、個々のパネラーの説明力も高く素晴らしいと思います。また、パネルディスカッションは結構長めでしたが、うまく進行されていました。
- ・貴重なお話をありがとうございました。新型コロナ対応について、お話の中にあったように、我々一般庶民はメディアの情報に頼っているのが実情ですね。ルーチンワーク的な情報より本質的な部分が欲しいものです。先生方のお話の中で「変化してゆく新しい環境に対応してゆくことが大切。本質がどこにあるのか。人命が大切か経済が大切か。意を強くしました、と申しますのも「災害救助活動でコロナ対応を優先するのか、人命を優先するのか？ 人命ですね。」という自論を持っています。昨年 10 月末のエーゲ海の大地震でギリシャ・トルコのコロナ渦での救助活動の画像を見て確信しました。本日はありがとうございました。
- ・業務外での研修やシンポジウムに参加する機会が殆どないので、新鮮でよかった。興味あるテ

マであれば、また参加したい。

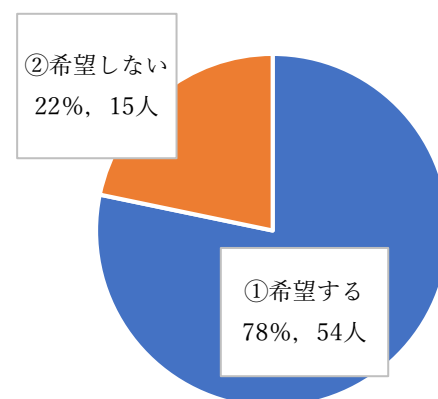
・大変よい企画に参加させていただき、ありがとうございました。

・命の安全と保障という観点からコロナ禍をとおして、アメリカをはじめ欧米の社会と中国ならびに台湾そして日本を比較して Root Causes にいたる分析をすると面白いことが判ると思います。



Q9. 今後、参加時にご登録いただいたメールアドレスにシンポジウム・セミナー等のご案内を差し上げてよろしいですか。（N=69 回収率 52.3%）

① 希望する	54
② 希望しない	15
合計	69



第3回レジリエンス研究教育推進コンソーシアムシンポジウム 質問レポート

#	宛先	質問	質問者所属	参加区分
1	鈴木氏	災害拠点病院の認定要件にBCP・BCMが必須となっていると思いますが、大学病院がしっかりやってらっしゃると思います。大学病院がBCP推進になるべきと思いますがいかがでしょうか。	大学	一般参加
2	長瀬氏	人（スキル）への依存度を減らすということは、具体的にどうすればよいのでしょうか。優秀な（スキルのある）人材を抱えることが、組織の重要な要件だと思うのですが、このような人に依存しないようにするにはどうしたらよいのでしょうか。もちろん100%ではないということは理解していますが、バランスの観点からご教示ください。	研究機関	一般参加
3	長瀬氏	地震など突発的災害と、パンデミックに対するBCPでは、受動的に受ける被害による業務停止と、感染予防のために能動的に業務停止をしていく違いがあると思いますが、レジリエンスに違いはありますか？	企業	一般参加
4	倉橋氏	倉橋先生への質問です。感染拡大は、感染の機構からいくつかの基本を守ることによって防げると考えます。人との距離を保つ、マスク着用、手洗いの3つが必須で、さらに追加すれば換気と消毒だと考えます。こういう感染機構よりもマクロな行動（テレワーク、外出自粛、会食自粛など）に立脚した予測や規制が主流であることが理解できません。もっと、個々の挙動に基づいた感染予防策を訴えるべきではないのでしょうか？感染機構にもとづいた予防策では効果がないのでしょうか？	研究機関	一般参加
5	倉橋氏	GoToを減らすと感染者がへ減るというエビデンスを初めて伺いました。これは内閣府の資料ならば政府としてもエビデンスは存在していたということでしょうか？	企業	一般参加
6	倉橋氏	Go to トラベルはやるべきでしょうか？	研究機関	一般参加
7	倉橋氏	モデルの住まい方、例えば戸建てとマンションで感染拡大の違いはありますか？データから戸建てとマンションの相違がありましたか？	不明	不明
8	倉橋氏	倉橋先生の行われたシミュレーションのようなことを、広く知らしめることで、パンデミック防止施策への理解が深まり、人々のより広い協力が期待できるのでは、と思いますが、そのような観点からのリスクコミュニケーションに関して現状はどうなっているのでしょうか。また、マスコミなどのリスクコミュニケーションに関するステークホルダーに対して「提言したいこと」などございましたら、お聞かせ下さい。	企業	R2EC参画機関
9	倉橋氏	倉橋先生から一人一人がという話がありましたが、緊急事態が発出されても重大事だと感じる人ができない人々がいます（例えば政治家）。こういう人たちは何が原因で、あるいは何が欠けていて、緊急事態を正しく捉えられないのでしょうか？どうすればこういう人たちの行動を変えることができるのか、若いころの教育を含めてご意見をお願いします。	研究機関	一般参加
10	倉橋氏	倉橋先生のシミュレーションは各自が自分事として考えるためのツール、というご意見に強く感銘を受けました。専門の先生がシミュレーションを行うだけでなく、各企業で自社のシミュレーションを手軽に行えるようなシミュレータを公開することはできないのでしょうか？ゲームのように簡易版が提供されるとすばらしいと思います。	企業	一般参加

11	倉橋氏	危機対応で悩むのは、どちらを立てれば良いか、の判断に迷う時です。人名と事業継続、感染予防と経済(経営)維持、決めるのはもちろんTOPの仕事ですが、その時に意思決定者として欲しいのは選択肢、メリット、デメリットを示してくれること、まさにシミュレーションだと思います。日本は特にこのシミュレーション機能が弱いと思いますは、それはなぜか、今後もっとこの部分は強化されていくのか、倉橋先生のお考えを伺えますでしょうか？	企業	一般参加
12	鈴木氏・長瀬氏	倉橋先生へのご質問でも書きましたが、鈴木先生、長瀬先生に関しても、それぞれのお立場から、マスコミなどのリスクコミュニケーションに関するステークホルダーに対して「提言したいこと」などございましたら、お聞かせ下さい。	企業	R2EC参画機関
13	指定なし	レジリエンスの観点からは「経営リスク」も範疇だと思うのですが、事業継続計画では経営リスクは範疇にないと認識しているのですが、いかがでしょうか？	企業	一般参加
14	指定なし	日本流のレジリエンスというのは、国民皆がゆるやかにしなやかに対応していくところに強みがあるように思います。政府の迅速な対応、制度、体制、といったものは常に批判されますが、そこに強さはなく、他国に比べると遅く、甘く見られるかもしれませんが、結局は長い教育としつけと文化の流れでしなやかなレジリエンスがあるように思いますが、皆様のお考えはいかがでしょう？	企業	一般参加
15	指定なし	緊急事態を正しく捉えられないのは、サイエンスリテラシーが欠けているのではないのでしょうか。高校で文理を分けて、サイエンスを十分に学ばずに大人になると、医学や科学の重要性を感覚的に理解できないのではないかと思います。	研究機関	一般参加